

栃木県中学校長会報

平成12年9月7日 発行 第93号
栃木県中学校長会広報部

会長あいさつ



栃木県中学校校長会
宇都宮市立星が丘中学校
校長 須藤 光 弘

現在我が国は、新世紀にむけて創造的で活力ある社会をいかに構築していくか、また、世界の一員として、国際社会にどのように貢献していくか

といった、大きな課題に直面しております。このような課題に 대응していくためには、教育の果たす役割が大であり、次代の日本を担う子ども達の教育の問い直しが現下の教育改革であることは、すでに案内のとおりです。中教審、教課審等の答申を経まして、教育課程の改善が成され、本年度から、新しい中学校学習指導要領の移行期に入りました。

生活環境を取り巻く課題の多い社会に対応し、主体的に問題を解決できる能力、すなわち「生きる力」の育成が求められ、完全学校週5日制の実施や、「総合的な学習の時間」の創設、授業の1単位時間、および授業時数の運用と弾力化等、明治以降第三の教育改革と言われるほど画期的な内容になっております。

私達校長は、このようなゆとりの中で「生きる力」を育む新しい学校教育を目指し、教育の基調が変換されようとしていることへの趣旨の理解と施策への十分なる認識を持って学校経営を行わなければならないことは自明のことであるとともに、一方では、学校の自主性・自立性が求められているところであり、校長の権限の拡大や、学校評議員制の問題等、これまでの教育改革には見られない校長としてのリーダーシップと創意工夫が求められ、校長の職責は極めて重いものです。

この新しい教育を目指し、平成14年度完全実施に向けた移行期間の成果を挙げていくためには私ども学校長が、どのような理念で、どのような学校作りを成すべきなのかを明確にする責任があると思っております。私なりの所信の一端を申し述べさせていただきます。

学校作りのまず第一は、教師の資質・意欲・使命

感の高揚を図り、学校は広く多様に学ぶところであることへの深い認識を持ち、様々な手法を創意工夫し、生徒自身の学びの構築に向けた、教育力高い中学校にすることであろうと思います。そのための、教職員の研鑽をリードすることはもちろんですが、その根底には、校長と教職員との好ましい人間関係の醸成が大切であります。校長自らが心豊かな人間となり、強い信念と愛情を基本に教職員をリードし、教職員が生き生きと、共に協力しながら各自の持てる力を存分に発揮して、生徒の個性・能力を伸ばし、心を耕せる中学校にしたいものです。

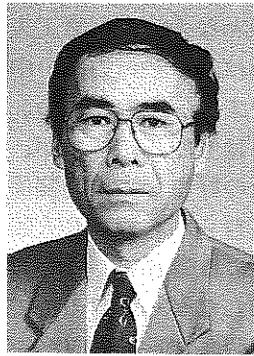
第二は、生徒の主体性を十分発揮できる場を多面的に構築し、社会の変化に自ら対応できる能力の伸長を願い、生徒自らが考え、正しく判断し、実践の結果に責任をもつことのできる生徒の育成を目指すことです。特に昨今、生徒指導面におきまして、社会規範意識の欠落、凶悪犯罪の低年齢化、学級崩壊等、危惧する問題が山積しております。この生徒の主体性を育てる教育の根幹は、一人一人の生徒を一つの人格を持った人間として大切にしながら、認めて、ほめて、励ます事の徹底であり、これは本県の「いきいき栃木っ子3あい運動」の精神を基盤とした実践活動そのものでもあります。主体性を育てる教育を徹底することによって、生徒の目や心が開き、物事の多様な見方や考え方が身につき、それは、明日への希望と意欲のエネルギーとなるものと確信いたします。

第三は、学校教育目標の管理と、開かれた学校作りであります。今や、学校の絶対性や画一性はなく学校が評価される時代にきております。校長は学校教育目標の管理を行った結果に責任を負い対外的に保護者や地域社会に対して教育目標の実現に向けた取り組みについて機会あるごとに説明し、理解と協力を依頼するなど、校長の姿を全面的に校外に表出することが肝要です。学校教育は生涯学習の1ポイントとしての捉え方であり、「生きる力」の育成は学校だけの取り組みで達成できるものではありません。保護者や地域社会との協力・信頼関係を一層深め、地域に愛される中学校にしたいものです。

私達校長会が一丸となり、使命感に徹し、本県中学校教育の充実と発展のため努力して参りたいと考えております。

〔役員所感〕

二つの出来事から学ぶ



栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立宮の原中学校
校長 大垣 龍 夫

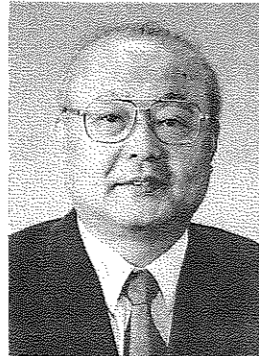
私の長い教員生活で経験したことのない出来事が、この1学期に二つあった。

一ヶ月ほど家出をしていた男子生徒が他の生徒の家にいるという情報が入ったので、担任が駆けつけ無事その生徒を保護した。普通だったらここで「めでたし、めでたし」で一件落着くのだが、担任が母親に生徒を引き取りに来て欲しいと電話したところ、母親の口から出た言葉は「かまわないから、また放り出して」だったというのだ。男親なら私も理解できる。しかし、警察に捜索願を出し、私の前では涙を流していた母親がそう答えたというのだ。担任は生徒を家まで車で送り、母親に引き渡した。2時間ぐらい後、息子が再び家を出ていったという電話が母親よりあったときは少しも驚かなかった。

東京の男子生徒が、ある日突然本校に現れた。しかも教室にである。女の子に会いに来たのだ。インターネットで知り合ったと言う。指導も聞かずにその後も二度ほど無断で学校を休み、市内で会っていた。別の女子生徒は、やはりインターネットで知り合った大学生に会うために、名古屋の方まで行き、1週間も帰って来なかった。

この二つの事例は、これからの大人の心の様変わり、生徒の行動様式の変化を如実に物語っている。自分の欲望を満たすために、我が子の世話を放棄する母親（保険金を手に入れるために、子どもまで殺害する母親さえいる）、何の見境もなくすぐ行動に走る生徒（しかも広範囲に）、校長としての危機管理に新しい分野が増えた。特にパソコンの急激な普及による生徒への悪影響には今後十分留意しておく必要があると痛感した。今や、東京の校長といや日本中の校長と連絡を取り合う時代に入ってきた。

教育雑感



栃木県中学校長会副会長
鹿沼市立東中学校
校長 角 田 昭 夫

私が鹿沼市立東中学校に着任したのは平成11年度であるからちょうど1年4か月前のことである。学校勤務は実に23年振である。「学校はど

うしました？ 何かと忙しいでしょう。学校は、行政と違うでしょう。」と会う度に先輩や同僚の先生方に聞かれたが、当初は無我夢中で、「うん、まあね。」という応答だったと思うが、今は、その忙しさを実感している。

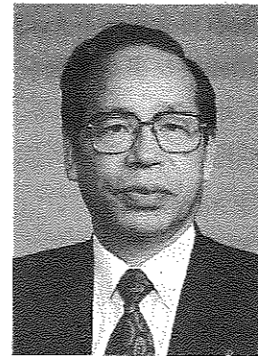
教育行政は、学校と一体となっているので、主に人事や指導面の学校の問題が多いが、加えて、文部省、市町村教育委員会関係の事務、議会・報道関係といったものがあり、これらは毎年決まった忙しさである。なかなか思うように解決のつかないものがあるが、何とか組織として対応していく体制があるので、ストレスとして残るような雰囲気ではない。

学校の問題は、大半が人的なトラブルの問題に終始している感が強い。学校を取り巻く環境は、地域社会、保護者等があり、人が人を教育する上で、殆どが人的環境に囲まれている。例えば、生徒の問題行動が生ずれば、当該加害生徒を中心に被害生徒、関係保護者、関係機関・教育委員会の職員と一連の人的関わりの中で、校長が中心となって進めなければならない。他にも不登校・金銭・盗難・規則に絡む問題等に関わるトラブルも沢山ある。要するに、学校の判断だけで処理をしていくケースが沢山あり、これがストレスとなって蓄積される。教職員も疲れてきている。学校が忙しいというのはこういうことなのだということを実感せざるを得ない。

教員が教育のプロならば、教育指導（特に授業）で全力で尽くしてもらいたいと思うのは全ての校長の願いであろう。教え育む側と学び育つ側の環境が多くのトラブルで壊されることは誠に情け無いことである。

学校評議員制度とか学校の説明責任というのはこういう学校の実態を外部に強く発信することなのかもしれない。

〔退任に当たって〕



前栃木県中学校長会
前宇都宮市立一条中学校

校長 高 梨 眞佐岐
会長退任に当たりまして、一言御礼申し上げます。

会長在任中は、本会の運営に関しまして、役員の方をはじめ、会員の校長先生方、事務局担当の皆様方のご協力をいただき、充実した校長会活動ができましたことを、心から感謝申し上げます。

平成11年度の中学校教育に関しましては、いじめ問題や不登校生徒への対応、新教育課程の実施に向けての学校運営の在り方等々多くの課題を抱え、その解決のために各専門部、研究大会をはじめとし、校長会をあげて努力してきたわけでありました。また平成13年度の関東甲信越地区中学校長会研究大会栃木大会に向けて、準備会を中心に12年度からスムーズに準備に入れるようにその基盤づくりに努

てまいりましたし、本県の校長会の組織や運営の在り方を時代に即して見直し、校長会の創意をもって改善の一步を踏み出した年でもあります。これも、会員の皆様の熱意の結果であると感謝しております。

現在各学校では、新教育課程への移行の時期にあり、種々の試みがなされておりますが、その実施に向けて、指揮を執る総責任者は校長であります。この変革期にあって重い責任を背負う反面、新たなる教育の創造者として自らの理想に向かって存分に力を発揮することのできる機会でもあります。校長は、新しい教育創造の方向を明確に示して、職員・生徒・保護者への周知と理解を得てその実現に努め、夢と希望を与え続ける活力を持ち続けたいものです。

その活力源泉の一つに校長会自体がなりたいものです。学校経営の心の拠りどころとしての校長会、経営の質的向上を助ける校長会、いざという時に頼りになる校長会の存在が、こうした時期には極めて大きな意義を持つ時であります。会員の皆様の相互に磨き合う場として、校長会が益々充実したものとなることを期待して止みません。

さいごに、会員の皆様の益々のご活躍と本会の発展を祈念いたしまして、お礼のことばといたします。

平成12年度 各専門部活動計画

☒ 総務部

部長 落 合 延 行 (宇・泉が丘中)

平成12年4月25日、県教育会館において第1回総務部会を開催し、役員選出及び事業内容等の協議を行った。

1 平成12年度役員

部 長 落 合 延 行 (宇・泉が丘中)

副部長 新 江 侃 (那・大田原中)

” 渡 邊 紘 夫 (小・小山三中)

2 事業内容

(1) 県中学校長会要望書案の策定

(義教振・教福教要望書への意見集約)

(2) 行政当局をはじめとする県内各関係機関への要望活動の推進

(3) 県中学校長会の次年度の運営方針、活動の重点の検討と立案

3 事業計画

(1) 県職員福利厚生事業推進協議会作成の「教職員福利厚生事業充実に関する要望書」への意見

集約 (6月・7月)

(2) 義務教育振興協議会要望書起草委員会への意見集約 (6月・7月・9月)

(3) 第2回総務部会 (7/6)

県中学校長会要望書案の策定

(4) 第3回総務部会 (8/4)

県中学校長会要望書案策定と平成13年度の運営方針・活動の重点等の案策定

(5) 県教委義務教育課等への要望活動 (8/23)

(6) 知事部局、県議会関係者等への要望活動 (9月)

(7) 各地区の関係機関への要望活動 (9、10月)

(8) 第4回総務部会 (9月14日)

平成13年度の運営方針・活動の重点等の案策定

(9) 第5回総務部会 (12月14日)

平成13年度の運営方針・活動の重点等の案決定

(10) 理事・協議員会にて運営方針・活動の重点の決定 (2月15日)

☒ 事業部

部長 桑田 秀子 (宇・晃陽中)

平成12年4月25日(火)県教育会館に於いて、専門部会を開き、本年度の組織及び事業計画について協議した。

前年度の事業内容の確認と反省に基づき、今年度の組織と事業内容について検討した結果、ほぼ、前年度の事業を継承することとなり、概ね次のように決定した。

1 役員

部長 桑田 秀子 (宇・晃陽中)

副部長 齋藤 雄介 (河内・田原中)

〃 桃瀬 基 (上都賀・北犬飼中)

2 事業計画

(1) 退職後の生活設計についての研修会

ア 日時 平成12年12月 13:00~16:00

イ 会場 栃木県教育会館 3階大会議室

ウ 内容 講話と質疑

(ア) 医療保険について

- ・退職後の医療について
- ・任意継続組合員制度について
- ・継続療養制度について

(イ) 退職手当について

- ・退職手当について
- ・退職手当の算出について

(ウ) 年金制度について

- ・退職共済年金の内容と仕組みについて
- ・退職共済年金の支給について

(エ) 教育福祉振興退職者部会について

- ・退職者部会について
- ・退職者部会の加入のしかたについて

(オ) その他

エ 講師 栃木県教育委員会福利課長・他

(2) 道徳副読本「中学生の新しい道」の編集

日時・会場ともに未定

☒ 調査部

部長 定岡 明義 (宇・陽西)

1 役員の選出と事業計画の作成

平成11年4月25日、栃木県教育会館において調査部会を開催し、本年度の組織及び事業計画を協議し、次のように決定した。

(1) 役員

部長 定岡 明義 (宇・陽西)

副部長 篠崎 一郎 (芳・山崎)

〃 新沼 隆三 (下・南犬飼中)

(2) 事業計画

ア 全日中教育情報部との共同調査事業である

「中学校教育に関する調査」の実施予定

イ 県中学校長会及び各専門部活動に必要な調査と資料の提供

ウ 他都道府県中学校長会及び各教育関係団体との連携・協力並びに資料・情報の交換

エ 各種調査結果及び資料収集、情報の提供配布

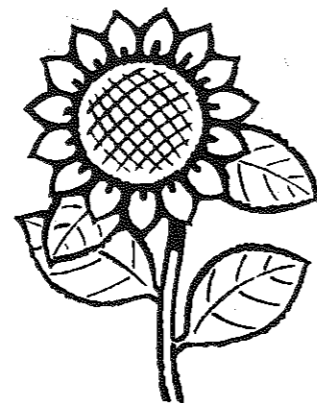
2 「中学校教育に関する調査」について

本調査は、全日本中学校長会教育情報部より共同調査を依頼されるものであるが、今年度は未実施の可能性がある。実施の場合は県教委義務教育課及び高校教育課等に資料の提供をお願いすることになっている。

3 「県民の日協賛関連行事調査」について

本調査は知事部局の「県民の日実行委員会」から依頼されるもので、2学期末にまとめることになる予定である。

後日、各校の実施状況を調査するので、その際はよろしくお願ひしたい。



☒ 研修部

部長 谷島 利康 (宇・一条中)

1 平成12年度組織

部長 谷島 利康 (宇・一条中)

副部長 上野 忠之 (芳・真岡東中)

〃 三添 憲公 (上・鹿沼北中)

2 平成12年度研究活動計画

(1) 研究テーマ

ア 全体会研究協議題

〔生きる力〕を育み、新しい時代を拓く心を育てる中学校教育

イ 研究の視点

生徒に豊かな人間性の基礎・基本を身に付け主体性や個性を生かす特色ある教育活動を展開し、自ら学び考える〔生きる力〕を育む中学校教育の創造

(2) 主な研究活動

ア 第22回栃木県中学校長会研究大会の実施

今年度の栃木県中学校長会研究大会は平成12年9月7日(木)に栃木県こども総合科学館で開催されます。平成13年度の関地区栃木大会のリハーサルを兼ねたプレ大会として実施します。

・県中学校長会重点研究課題からの研究主題については、平成14年度に引継ぎます。

・午前の部は、開会行事、全体協議題提案、分科会

・午後の部は、関地区栃木大会各部打合せ、企画委員会を予定しています。

各地区では、関地区栃木大会に合わせて、熱心に研究を推進しておりますが、今年度はリハーサルとして、3会場に分かれ、1会場3分科会で発表をいたします。

◎ 第1会場 (多目的ホール) 第1分科会 (上都賀) 第2分科会 (下都賀) 第3分科会 (小山・栃木)

◎ 第2会場 (第2学習室) 第4分科会 (塩谷) 第5分科会 (南那須) 第6分科会 (安佐)

◎ 第3会場 (企画展示室) 第7分科会 (那須) 第8分科会 (足利) 第9分科会 (芳賀)

イ 研究収録の作成

第22回研究大会内容の編集

☒ 広報部

部長 橋本 忠良 (河・南河内中)

平成12年4月25日(火)に、下記のように新役員を決定し、次いで平成12年7月4日(火)南河内中学校にて、第一回広報部会を開催した。協議の結果、本年度の事業計画を次のように構想した。

1 平成12年度の役員

部長 橋本 忠良 (河・南河内中)

副部長 堀江 昌子 (宇・瑞穂野中)

〃 池澤 勤 (小・美田中)

2 今年度の会報発行の構想

(1) 発行回数は2回とする。

- ・第93号、第94号とする。
- ・内容はこれまでとほぼ同じとする。
- ・体裁をA4版とし、最後に簡単な「編集後記」を載せる。
- ・「地区だより」については、「活動計画」と「活動報告」を掲載する地区が固定しないように、年度ごとに入れ換える。

(2) 発行予定日

- ・第93号 平成12年9月7日ごろ
- ・第94号 平成13年2月15日ごろ

(3) 各号の主な内容について

① 第93号

- ・役員所感
- ・各専門部の活動計画
- ・退任に当たって
- ・関中校長研究協議会(神奈川大会)参加報告
- ・新任校長のひとこと

- ・私の朝会訓話
- ・各地区だより

② 第94号

- ・役員所感
- ・各専門部の活動報告
- ・全日本中学校長会研究協議会(鹿児島大会)の参加報告
- ・研究学校の発表概要
- ・海外研修視察報告
- ・各地区だより

☒ 進路対策部

部長 吉田 治 (宇・豊郷中)

平成12年4月26日(火)県教育会館において専門部会を開き、本年度の組織及び年間事業計画について協議し次のように決定した。

1 組織

部長 吉田 治 (宇・豊郷中)

副部長 柳田 好弘 (塩・片岡中)

“ 小松 寛幸 (佐・南中)

2 本年度の事業計画

中心テーマ「中学校進路指導の適正な推進と高校教育改革への提言」

(1) 第1回研修会

ア 期日 平成12年7月1日(出)

イ 場所 豊郷中学校

- ウ 内容
 - ・本年度の事業計画の確認
 - ・昨年度までの本部会の報告
 - ・高校入学者選抜に関すること
 - ・私立高校の教育、入学者選抜に関すること
 - ・情報交換

(2) 第2回研修会

ア 期日 平成12年10月23日(月)

イ 場所 コンセーレ

- ウ 内容
 - ・私立高校の教育、入学者選抜について私立中連合会代表、中学校会役員等出席予定

(3) 第3回研修会

ア 期日 平成12年12月12日

イ 場所 県教育会館

- ウ 内容
 - ・県立高校の教育改革、入学者選抜についてのまとめ
 - ・平成12年度入学者選抜について
 - ・平成11年度卒業生の進路状況について

☒ 生徒指導部

部長 大塩 宗里 (小・乙女中)

1 事業計画の概要

(1) 研究課題

いじめ問題及び不登校等学校不適応生徒への適切な指導と対応

(2) 第1回部会研修会

平成12年4月25日(火)

県教育会館 13:00~

(3) 第2回部会研修会

平成12年10月24日(火)

県教育会館 10:00~

2 研修内容

(1) 第1回部会研修会

ア 組織づくり

部長 大塩 宗里 (小・乙女中)

副部長 碓 水 正和 (南那・下江川中)

“ 中山 正孝 (宇・雀宮中)

イ 平成12年度研究課題の設定

ウ 研究の方向

研究課題について、各校で取り組んでいる研究実践例を発表しあい、課題解決に役立てる。主な話し合い事項として次のようなものが挙げられる。

- ・課題解決のための校内指導体制及び地域との連携の具体例
- ・各種専門機関との連携
- ・危機管理とサービスの研修
- ・「心の教室相談員」及びスクールカウンセラーとの連携
- ・生徒指導に関する特色ある教育活動の実践事例

(2) 第2回部会研修会

ア 課題研修

実践事例に基づく研究発表と話し合い

イ 平成12年度県版「生徒手帳」の編集会議

ウ その他情報交換

☒ 修学旅行部

部長 真壁 敏夫 (宇・姿川中)

平成12年4月26日(金曜日)県教育会館において専門部会を開催し、本年度の組織及び事業計画を次のように決定した。

1 組織

部長 真壁 敏夫 (宇・姿川中)

副部長 中田 昌宏 (栃・栃木東)

副部長 中沼 利栄 (上・加蘇中)

次長 藤田 秀夫 (宇・宝木中)

委員 添田 剛夫 (芳・逆川中)

委員 吉澤 政夫 (塩・阿久津中)

委員 矢野 隆 (佐・赤見中)

委員 加藤 巖 (足・富田中)

2 本年度の事業概要

(1) 修学旅行の改善向上を図る活動

- ① 教育性の充実
- ② 経済性の適正化
- ③ 輸送の合理化
- ④ 安全性の確保

(2) 全員参加の原則確立のための活動

第53回関東甲信越地区
中学校長会研究協議会
神奈川大会に参加して

事務局次長 小林 幸正 (宇・旭中)

6月14日・15日・16日、神奈川県横浜市の国立横浜国際会議場において、1都9県から1,300名以上の会員が集い開催された。

本大会から新大会主題「〔生きる力〕をはぐくみ、新しい時代を拓く心を育てる中学校教育」が設定される。(5カ年継続)

1日目、理事会後の総会で新役員紹介。2日目開会式で、遠藤神奈川県大会実行委員長から「学校も改革へ大きく踏み出した。子どもたちの変容に対応した積極的な生徒指導の取り組みと共に、教育内容の厳選、選択履修幅の拡大、総合的な学習の時間の在り方、指導方法、評価等の研究を続け、新教育課程を仕上げ、子どもたちの目を輝かせる明るい展望を開こう」と挨拶があった。

続く基調講演では、安齋前全日中会長が、トフラー

(3) 関修委加盟学校の増加を図る

(4) 学校現場と直結した実践活動

上記諸活動の実現を期し、本部会は関東5県で組織する「関東地区公立中学校修学旅行委員会」に加盟し、更に修学旅行協会と共に、次の活動を実施している。

- ① 新幹線利用希望調査(専用列車) (7月29日)
- ② 修学旅行実施状況調査・研究 (“)
- ③ 修学旅行費用の国庫補助金増額の陳情 (8月3日)
- ④ 輸送計画作成(他県との調整) (9月22日)
- ⑤ 研究発表会(群馬県)

(5) 関修委加盟へのお願い

校長会の専門部として位置付けられていながら、年々加盟校が減少している現状を打破したい。安全性、経済性の確立及び国庫補助金増額の陳情(文部省)など、本専門部の必要性を再認識してほしい。

の説をもとに現代社会を分析、それを基盤に教育委員会と校長会との間における〔指示命令と指導助言〕峻別の必要性、さらに説明義務、学校評議員制度の今日的課題について述べ、「子どもと共に涙する教師を目指そう」と結んだ。

全体協議では、神奈川県鈴木吉光校長から、「〔ゆとり〕ある教育活動を展開し、一人一人の子どもに〔生きる力〕をはぐくみ、〔教える〕ことから〔学ぶ〕ことへの転換を図る中学校教育の創造」を視点とする提案があり、本県の大柿克治校長(栃木西中)が研究協議の司会を担当した。

分科会では、9テーマに分かれた研究協議があり、第1分科会では、「個に応じた教育と教育課程の編成」について三添憲公校長(鹿沼・北中)が提案、大貫良明校長(粟野・水野中)が司会を担当し、明解な論旨で好評を博した。

アトラクションや3日目の記念講演等を含め、一丸となって大会運営に取り組む神奈川の先生方の姿は、次年度栃木大会を控えた我々にとって大変参考になり、収穫の多い大会であった。

新任校長の一言

新任校長として

高根沢町立阿久津中学校長
吉澤政夫

新任校長として赴任して早、4か月が過ぎようとしています。始めはどれだけ教職員や生徒に影響を出すことができるのか不安でいっぱいでしたが、多くの人達に支えられ校長としての任務を果たせるようになってきました。

本校は、高根沢町の中心にあり、620名の生徒が通う中規模校です。新興住宅地を抱えているため生徒数は増加の一途をたどる傾向にあり、来年度も、その次の年も学級増の予定です。教職員も若さとバイタリティーに溢れ、学校が活力に満ちています。また、本校は以前から文武両道の精神で学校経営がなされ、生徒もそれに答え、部活動や文化的活動、学習面での活躍は素晴らしいものがあります。このよき伝統を継ぎ、さらに盛り上げるためには、校長として創造的リーダーシップをどのように発揮するかだと思います。全教職員の能力を十分発揮させ、「生徒一人一人を生かす教育」の充実に徹し、生徒が自分の良さを発揮し、生き生きと活動する学校を目指し努力していきたいと考えています。

子どもあつての学校

佐野市立吾妻中学校長
安藤喜久江

桃や梨の花が美しく咲く、自然環境に恵まれた本校に赴任して4か月が過ぎました。

出勤すると、2階の3年、2年、1年のクラスを通り、1階の昇降口へ行きます。

この時間が一番楽しみです。昇降口であいさつをしながら一人一人の顔を見ていると、心が通い合うような気がします。

年度当初に、職員会議で経営方針を述べましたが、その中で「子どもあつての学校」ということを話しました。私たちはつい大人の立場から物事を考え、計画し、実践しがちになります。友達と「これからの教育は～」などと話し合っていてふと気がついてみると、子どものことはそっちのけになっていることがあります。

これから私たちがしようとしていることは、本当に子どものためになるのだろうか、という視点に立つことを忘れてはならないと思います。

子どもの顔を見る楽しみの裏に、子どもの顔を忘れてはならないという自戒の念をこめて、昇降口に立っています。

中学校教育に「根・知・和」

葛生町立葛生中学校長
関根静思

7年ぶりに中学教育に携わることになりました。当時の中学生の気質と大分、様変わりしているのには驚かされます。社会状況が急激に変貌しているのですが、その波のうねりを受けるのはいかしかたのないことですが、教育には流行・不易があり不易の点は堅持していきたいと考えています。

よりよい生徒・よりよい学校にしていくにはよりよい教職員の姿勢が大切で、私は、今までの教職経験を通して、「教育の根幹は教育愛と信頼に尽きると考えています。それに基づき、粘り強く互いに知恵を出し合い、和を持って取り組もう。」「根・知・和」精神と称し、教職員へ理解を図りながら、共々努力傾注しているところです。「こんにちは」の挨拶を交わした時、常に心で振り返るものとしています。もう一つ、教育の理念として「教育は共育・養育なり」を掲げ、自然とともに、地域とともに人間社会（老若男女、外国人、障害者等の存在）とともに生きられる人間形成が必要と捉え、互いに関わりをもって、相手を理解し、心に響きあえる関係づくりをし、「共学・共汗・共和・共律」を通して、教職員・生徒と共に歩みを進めているところです。

雑感

足利市立愛宕台中学校長
若林光男

新任校長として4月に赴任し、早4ヶ月が過ぎようとしています。1日があつというまに経ってしまう忙しい毎日です。

208名の生徒が通う本校は、足利市の南東部に位置し、渡良瀬川とその支流の矢場川に挟まれた緑豊かな田園地帯にあります。

豊かな自然環境に生まれ、純朴で真面目な生徒が

地区だより

平成12年度の研修活動

宇都宮地区

宇都宮市中学校長会は、市立21校と宇大附属中学校とで構成している。平成12年度は6名の新会員を迎え各種校長研修を開催予定です。

- 宇都宮市中学校長研修会（年間5回）
 - ・1回目 4月7日 平成12年度の校長会の組織と事業計画について
 - ・2回目 6月8日 県理事会報告と関東地区栃木大会組織運営、情報交換について
 - ・3回目 10月5日 県理事会報告と栃木大会全体協議題、市教委への要望について
 - ・4回目 2月1日 県理事会報告と栃木大会研究運営、理事協議員会について
 - ・5回目 3月26日 本年度のまとめと次年度の計画について

- 宇都宮市中学校長情報交換会

上記研修会の補助的機会として、市教委主催の校長会議終了後に開催するものであり、本年度は5回（4月20日、6月29日、9月26日、12月1日、2月27日）計画した。

なお、臨時校長会を5月31日に開催し、生徒指導対策について協議した。

- 宇河地区中学校長研修会（年間4回）

河内地区9校との合同研修会であり、そのうち2回は宇河地区の公私立高等学校長との懇談会とし、次のような内容が話題となった。

- ・中高一貫教育や中高教員交流について
- ・1日体験学習と入試の在り方について
- ・生徒指導について

- 市立中学先輩校長との懇談会

情報交換を主たる話題とし、例年12月に開催している。

多く、学習活動、生徒会活動、部活動に積極的に参加しております。

特に生徒会活動では「いじめ」をなくすために6つのスローガン（1・絶対にゆるさない 1・見て見ぬふりをしない 1・相手の気持ちを考えよう 1・友達の相談にのろう 1・真剣に考えよう 1・みんなで話し合おう）のもと、「いじめ0生活（ゼロライフ）」運動を展開しております。

明るく親しみやすい生徒、個々の生徒を懇切丁寧に指導される先生方、進んで協力して下さる地域の方々に囲まれ、どのような学校運営をしていくべきか日々模索しています。

今、校長室の前には深紅の百日紅が咲いています。美しい花を見ながら、心身共に健康で創造性に富み、広い視野を持つ心豊かな生徒を育成していきたいと思っております。

緑と笑顔と心意気

宇都宮市立城山中学校長
犬塚恒士

赴任してはじめて生徒に接した時、正直うれしく思いました。緑に囲まれた中、みんなが温かく迎えてくれました。そして、このような生徒を育ててくれた地域・家庭・学校に心から感謝いたしております。

「自然体験・生活体験が子どもの心を育む」と国の審議会では答申の中で述べておりますが、その根底として生徒を取り巻く、生徒と接する多くの人々の心の温かさが何にもかえがたいものであると思います。

生徒にとっての学校は、一生の中で折りにふれ思い出されるほど心に残るものです。そして、生徒が親になりその子が生徒として入学してきた時再び自分の学校時代を鮮明に思い出されるものです。その意味で、学校教育の機能を考えるとき、生徒にとって単なる三年間あるいは六年間ではなく、心のふるさととして生きつづける学校であるという視点が極めて大切であると考えます。

先代校長先生をはじめとして多くの方々の御努力により築いてきたその重みをしっかり受け止め重責を感じながら登校する日々です。

研修計画の概要

上都賀地区

平成12年度の上都賀地区中学校長会は、2名の
新役員を迎えてスタートした。

第1回の校長会を4月14日(金)に開き、研修計画、
役員分担が提案され承認された。計画された定例の
研修では、平成13年度関地区大会栃木大会の提案
に向け組織的に研究を進めていくことを確認した。

- 4月14日 組織づくり、研修計画
全日中、関プロ大会参加者調整
- 6月5日 研修主題、研修計画の確認
- 6日 研究協議
- 9月21日 県外教育事情視察研修
22日
- 10月20日 研修テーマ研修
研究協議、情報交換
- 2月22日 研修のまとめ、教育講演会
23日

研修計画の概要

下都賀地区

下都賀郡中学校長会は、その名を「思川会」とし
て伝統ある研修活動を推進している。新会員3名を
迎え12名でスタートした。

- 1 基本方針
県中、栃中、小中の校長会との連携を取りなが
ら、郡中学校教育の振興・充実を図る。
(1) 会員相互の研修を深め、共通理解のもとに学
校運営に当たれるよう意思の疎通を図る。
(2) 各中学校の主体性を尊重しつつ、情報交換を
深めて、教育活動の活性化に寄与する。
- 2 研修計画-各月1回、各中学校を会場
(1) 研究テーマに基づく研修
(2) 学校運営に関する情報交換及び連絡調整
(3) 各種研修会への参加
(4) 県外教育事情調査及びその研究
- 3 研修テーマ「自ら学び自ら考える力を育む学習
指導」と「夢や希望をもち、逞しく生きる生徒が
育つ進路指導」の2本立てとする。

研修活動の概要

栃木地区

栃木市中学校長会は、中田昌宏会長のもと昨年と

同スタッフの7名で活発な研修活動を推進している。
本年度は、定例研修会、教育事情調査をはじめ、次
のとおり的活動を行う予定である。

- 1 課題研修
「豊かな体験を通して心を育てる教育」
(体験活動等を生かした心に響く道徳教育)
- 2 教育事情調査
(1) 6月27日・福島大学附属中学校
「生きて働く確かな学力を育む授業の創造」
(2) 11月27日～28日・三重県嬉野中学校
「一人一人を大切に作る教育を求めて」
- 3 小・中・高校の連携
(1) 小・中学校合同研修会
① 情報交換、日頃の課題等の協議
② 教育講演会
・「郷土の画家たち」・渡辺達也先生(美術史家)
・校長・教頭合同講演会(講師未定)
- (2) 中・高校の懇談会
① 「一日体験学習について」の情報交換と協議
② 「進路指導の在り方」の情報交換と協議

研修計画の概要

那須地区

7市町村、26校で構成される那須地区中学校長
会は、7名の新会員を迎えてスタートした。

本地区では、研修体制の強化と新指導要領への移
行をスムーズに進めるに当たって、中教研との連携
を一層すすめることの二つを本年度の課題として掲
げ、活発な活動を開始している。

4月総会で提案、承認された研修計画は次の通り
である。

- 研究主題：個性を生かす教育を推進するための条件
整備
- 4月7日 那須地区小中学校長会総会
- 5月9日 小中合同研修部会細部計画
- 6月20日 小中別研修会
- 7月 市町村別自主研修
- 8月3日 小中別研修、市町村別研修まとめ
- 9月22日 小中合同校長研修
- 11月16日 小中校長全体研修(泊)
- 2月22日 本年度反省と課題

尚、学校運営上の諸問題についても毎回情報交換
を行い、校長会としての共通理解に努めている。

研修計画の概要

安佐地区

安佐地区の校長会は、佐野市6名、阿蘇郡4名の
計10名で構成され、今年度5名の新役員を迎えス
タートした。4月5日に臨時校長会を開き役割分担、
研修内容、研修日程等について協議した。その結果、
研修日は年間5回とし、1回は一日研修とした。

- 研修テーマ
「規範意識や社会性を育てる生徒指導」
- 4月20日 研修テーマの決定・研修

- 5月23日 諸問題についての情報交換
・研修テーマの研修
- 10月17日 諸問題についての情報交換
・研修テーマの研修・まとめ
- 11月14日 諸問題についての情報交換
・研修テーマの研修・まとめ
- 1月30日 諸問題についての情報交換
・反省と次年度の計画
- その他の研修 諸問題についての情報交換
・足利地区中学校長会と合同研修
・安佐地区中・高校長連絡協議会

私の朝会訓話

生徒が喜んで集まって来る朝会をめざして

宇都宮市立宮の原中 大垣 龍夫

朝会が好きな生徒は少ないだろう。私の高校時代
の校長は、朝礼の話が短いので生徒間でも評判がよ
かった。だから朝礼が苦痛でなかった。高校生の私
たちのために得意の漢詩を引用して人生とは何ぞや
等といった話を沢山してくださった。しかし、校長先
生には申し訳ないが、私が今でも覚えている校長の
話はたった一つだけで、他は何一つ覚えていない。
この年になっても忘れられない校長の話とは「諸君、
空を見たまえ……………終り」である。

生徒たちは、月に1～2回、暑い日も寒い日も校
庭や体育館に、私の話を聞くために集まってくれる。
(臨時に突然集合させられる時もある。)このような
生徒の期待を裏切ることにはできない。月1～2回だ
からと、校長の話を疎かにすることはできない。一
人でも多くの生徒が「今朝はどんな話をしてくれる
のだろう」と校長の話を楽しみに待つようになるた
めの創意工夫が必要である。

そのために、私は今、次の3つのことを実行して
いる。その一つは、視覚に訴えることである。話の
ポイントになる文や語句を模造紙に書いて、効果的
に提示するよう心がけている。生徒に「今日はどん
な話かな?」という期待感をもたせることができる
ようだ。二つ目は、お説教、教訓、道徳的な話に偏
らないように気をつけている。時には私の中学時代
の思い出や失敗談を話してやる。この時の表情は、

心なしか穏やかに見える。そして三つ目は、話す内
容を記録したメモ用紙を必ず持って臨むことである。
生徒に「校長先生も十分準備してきているんだな」
ということに分からせることも意味があると思っ
ている。

たった7～8分の朝会での校長の話ではあるが、
時間をかけ、周到な準備をし、生徒の学校生活やこ
れからの人生に少しでも役に立ち、できたら何時の
日かふと思い出してもらえるような、心に残る朝会
の話が一回でもできたらと思う。そして、一人でも
多くの生徒が、喜んで集まって来てくれるような朝
会をめざして、今後も努力していきたい。



お知らせ

本県で開催の関東ブロック研究大会について

**第26回関東甲信越地区中学校
進路指導研究協議会 栃木大会**

来る10月26日～27日、標記の大会が本県で開催されます。下記のようにその概要を御紹介いたしますので、できるだけ多数の皆様の御参加をいただければ幸いです。

記

1 大会主題

「将来の進路をいきいきと展望し、自己の生き方を探求できる進路指導」

2 期 日 平成12年10月27日(金)

(10月26日は理事会)

3 会 場 大平町立大平南中学校

(☎0282-43-8588 FAX0282-43-9646)

4 日 程

9:20	10:00	11:00～11:50	11:50～	12:40～	14:30～	15:30～
開会式	全体会	公開授業	昼食	分科会	記念講演	閉会式

5 全体会

- ・基調提案＝県中教研進路指導部会
- ・実践校研究発表＝大平町立大平南中学校

6 公開授業

- 第1学年 学級活動
- 第2学年 職場体験発表
- 第3学年 学級活動

7 記念講演

「新学習指導要領と進路指導実践上の課題」
講師＝鹿嶋研之助先生（千葉商科大学助教授）
（前文部省初中局職業教育調査官）

8 参考として

今大会の主な本県関係役員を御紹介します。
上岡暁校長＝関ブロ進路指導研究協議会長
（野木第2中学校長）
土屋忠直校長＝第26回関ブロ進路指導研究協議会栃木大会実行委員長
（都賀中学校長）

〔編集後記〕

連日30度を越す真夏日が続いた7月、8月、各学校の校長先生におかれましては、いかががお過してしたでしょうか。お元気で猛暑の夏を乗り切られたことと拝察いたします。

今、教育改革の真っ只中です。新教育課程の移行期間、その1年目を迎えて、各学校では、真摯に取り組まれていることでしょう。

さて、今号の《新任校長の一言》を読んでみますと、初心に立ち返ることの大切さを改めて知らされる思いがするのは私一人でしょうか。吾妻中学校の安藤先生は、次のように述べられています。「これから私たちがしようとしていることは、本当に子どものためになるのだろうか、という視点に立つことを忘れてはならない。――」

間もなく「実りの秋」。学校にとりましては、「研究会」や「文化祭」そして「進路指導の2学期」を迎えます。各学校の一層の御発展をお祈り申し上げます。
（橋本）